

舞台芸術研究プロジェクト・北翔舞台芸術の活動記録2013年

著者	村松 幹男
雑誌名	Probe : 舞台芸術通信
号	8
ページ	36-40
発行年	2014-02
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00001098/

活動報告

舞台芸術研究プロジェクト・北翔舞台芸術の活動記録2013年

村松 幹男（北翔大学／舞台芸術研究プロジェクト研究員）

舞台芸術研究プロジェクト・北翔舞台芸術（北翔大学生涯学習システム学部芸術メディア学科舞台芸術コース・北翔大学短期大学部ライフデザイン学科ファッション舞台アートコース）の活動記録二〇一三年

二〇一三年の活動記録

一月

・一月二六日（土）・二七日（日） 北翔舞台芸術第一六回二年目定期公演「ワーニャ伯父さん」（作 アンントン・チェーホフ 演出 村松幹男 四ステージ。ポルトホール）。

二月

・二月一日（月） 風呂敷オンステージ（学生は会場設営や照明・音響オペレーター） 江別セラミックアートセンター。前日より仕込み。

・北翔舞台芸術三年目学生を中心にラジオドラマ制作。富井先生の「ジョーダウン」のスタジオをお借りし、

三月

・三月九日（土） オープンキャンパス（学生は、前日設営、当日照明・音響オペレーター）

・三月一六日（土） 北翔舞台芸術小樽遠征公演 川口岳人一人芝居「煙草の害について」（作 アンントン・チェーホフ 演出 村松幹男）ニステージ。小樽市民劇場ヲタル座。四年目川口岳人の一人芝居。

・三月一九日（火） 卒業式。北翔大学短期大学部人間総合学科舞台芸術系八期生卒業。北翔大学生涯学習システム学部芸術メディア学科舞台芸術コース一期生卒業。

富井先生の指導のもと、本格的なラジオドラマ制作を行った。学生のオリジナル作品や脚色作品。BGMも全て学生オリジナルでおこなった。
「三つの宝」（作 芥川龍之介 脚色 西出萌美）、「歌を歌おう」（作 野田頭希）、「いただきます」（作 金美沙子）

・三月二四日(日)「高校生ダンス合同公演」舞台芸術研究グループ主催。ポルトホール。札幌新川高校・明清高校の合同ダンス公演。学生は舞台設営、照明・音響関係の手伝い。

四月

・北翔大学短期大学部ライフデザイン学科ファッション舞台アートコースの教員として平井伸之が着任。

・四月三日(水)北翔大学短期大学部ライフデザイン学科ファッション舞台アートコース(通算)一〇期生、北翔大学生涯学習システム学部芸術メディア学科舞台芸術コース五期生計九名入学。

・四月二三日(土)自治会新入生歓迎会。パル六階(音響・照明)前日は仕込み。

・四月一八日(木)、一九日(金)四年目公演Vol.2「遭難」(作 本谷有希子 演出 森一生)ニステージ。ポルトホール。
※なお、四月二三日(火)、二四日(水)の二日間ニステージで本谷有希子作「ファイナルファンタジック スーパーフラット」を三年目公演Vol.4として企画していた(連続公演としてフライヤーも作



4 年目公演 Vol.2「遭難」

成)。ところが、どうしても上演許可が下りない。営利目的でもなく、学生の学びの成果として公演を企画しているの、なんとか許可を願えないかとお願いしたが、許可が下りなかった。北翔舞台芸術の学生が行う芝居としては、初めて公演中止となってしまった。学生のモチベーションが下がってしまったのが残念であった。

五月

・五月一日(土)オープンキャンパス。音響オペレーターのみ。

・五月二五日(土)、二六日(日)二年目定期公演「小さな広場」(作・ゴルドーニ 演出 森一生)。四ステージ。ポルトホール。

この二年目定期公演で初めて、前日二四日(金)に公開ゲネプロ、公開ダメだし(ワークシopp)を実施した。また、各ステージの終了後に演出森一生による「ゴルドーニと喜劇」という講演(二五分〜二〇分)を行った。

六月

・六月九日(日)、一〇日(月)富良野演劇工場研修一泊旅行。朝日町サンライズホールと隔年で行っている恒例の研修旅行。初日は、美瑛・ファーム富田等



2 年目定期公演 Vol.17「小さな広場」

見学。二日目は午前中富良野演劇工場バックステージツアー、午後は砂川市地域交流センター「ゆう」バックステージツアー。

・六月一五日(土) オープンキャンパス。

・六月一六日(日) 第七回さつぽろ高校生演劇合同ワークショップ「冒険者たち」。舞台芸術研究グループ共催。ポルトホール。前日は仕込み。全般的な支援を行った。なおこの公演に伴うワークショップを以下のように行った。四月一四日(日)、二〇日(土)、二一日(日)、二七日(土)、二八(日)、五月一二日(日)、六月一四日(金)、一五日(土)。

・六月三〇日(日)、シニアファッションショー。ポルトホール。北方圏学術情報センターポルトの市民講座の一環として、舞台芸術と生活環境の両グループ主催で開催。「ディスプレイサービス ユーカリの丘」の参加を得て実施した。ダンスに眠っている服や捨てられない服などを高齢者とともに考えたデザインでリメイク。北翔舞台芸術の学生は舞台設営、照明・音響を担当。前日は仕込み。

七月

・七月一一日(木) ～七月一四日



東京研修

(日) 東京研修旅行。恒例の東京研修。一日、オリエンタルランド研修(その後デイズニールランドもしくはデイズニールシーを見学した学生もいた)、二日は早稲田演劇博物館見学、新国立劇場バックステージ見学、新国立劇場小劇場にて「象」(作 別役実)鑑賞。一三日、国立劇場歌舞伎鑑賞教室「芦屋道満大内鑑」鑑賞。劇団四季「ライオンキング」鑑賞。バックステージツアー。一四日は自主研修という内容であった。

・七月一四日(日) TEDx Sapporo。ポルトホール。北翔舞台芸術の学生の一部が参加。前日、前々日は仕込み。

・七月二〇日(土)、二一日(日) オープンキャンパス。照明・音響・ステージ等の設営。照明・音響オペレーター。前日仕込み。

八月

・八月二日(金) 大学祭前夜祭、四日(日) 大学祭。パル六階。八月一日より、照明・音響・ステージ等の設営。服飾美術のファッションショーの照明・音響も担当。

・八月三日(土)、四日(日) 一年目試演会「その受話器はロバの耳」(作 土田英生 演出



1年目試演会「その受話器はロバの耳」

村松幹男)。二ステージ。パル六階。

・八月六日(火)、七日(水)。舞台芸術研究グループ主催「高校演劇部のための演劇ワークショップ『イナダ的 感じる舞台表現』」。劇団イナダ組のイナダ氏を迎えてのワークショップ。

・八月二十七日(火) 砂川市地域交流センターゆうでのイベント「ミュージカルをやってみよう」。北翔舞台芸術の二年目の学生が、授業の「地域と芸術」の一環として実施した。子どもたちを集めて、「リトルマーメイド」の「アンダー・ザ・シー」を歌って踊るという企画。照明・音響もセッティング。しかしながら、参加者がゼロという残念な結果に終わってしまった。

九月

・九月一五日(日) オープンキャンパス。照明・音響・ステージ等の設営。久しぶりにファッションショーがあった。前日仕込み。

・九月二二日(土)、二三日(日) 三年目公演Vol. 4「僕のゆりかご」(作 青木豪 演出 村松幹男) 四ステージ。ポルトホール。四月の上演中止の影響で、結局九月にやっと実施。

一〇月

・一〇月五日(土)、六日(日) 二年目試演会。「農業少女」(作 野田秀樹 演出 荃津湖乃美―学生―)。四

ステージ。パル六階。

・一〇月一三日(日) 海流座公演稽古。パル六階。米倉齊加年氏と海流座の俳優たちが参加しての稽古となった。詳細は本号の特集に掲載。

・一〇月一八日(金) 海流座公演。「二十二夜待ち」・「父帰る」。ポルトホール。一ステージ。役者として学生十名が参加。舞台設営、照明等も手伝った(本号特集参照)。

一一月

・一一月一三日(水)、一四日(木) 四年目公演Vol. 3「あの、愛の一群たち」(作 清水邦夫 演出 森一生) 二ステージ。ポルトホール。翌週の三年目公演も清水邦夫氏作品。連続公演と銘打つての公演企画。



清水邦夫連続公演

上：4 年目公演 Vol.3

「あの、愛の一群たち」

下：3 年目公演 Vol.5

「救いの猫ロリータはいま・・・」

・一月二二日(木)、二三日(金) 三年目公演Vol. 5「救いの猫ロリータはいま・・・」(作 清水邦夫 演出 村松幹男) ニステージ。ポルトホール。

二月

・二月一四日(土) 学外発表会(ファックションショー「宙(そら)」。ニステージ。ポルトホール。照明・音響・ステージ設営の手伝いやオペレート。今回は短期大学部創立五〇周年記念。創立者浅井淑子先生のメモリアルショーもプロのモデルによって行われた。

・二月一九日(木) 北翔舞台芸術 演劇ワークショップ「10分間ストーリー」をポルトで本格的に上演しよう!」開催。二二日(木)、一四日(土)、一八日(水)に八時間に渡ってワークショップを開催。一九日は朝から仕込みを行って、本格的な上演とした。役者としての高校生参加は一八名。二チームに分かれて稽古を



ワークショップ(上演の様子)



ワークショップ

おこなった。

☆ ★ ☆ ★ ☆

二〇一三年も、積極的な公演を行った。「ワーニヤ伯父さん」、「煙草の害について」、年度がかわって「遭難」、「小さな広場」、「その耳はロバの耳」、「農業少女」、「猿のゆりかご」、「あの愛の一群たち」、「救いの猫ロリータはいま・・・」、そして海流座公演参加で「〇本になる。チェーホフ、ゴルドーニなどの西洋古典から新進気鋭の青木豪氏、そして今の時代こそ再評価されてほしい清水邦夫氏まで、幅広く行った。

二〇一四年になって、既に二年目定期公演「血の婚礼」が終了し、二月末に三年目試演会、三月上旬に四年目卒業公演、年度がかわって四月の三年目、四年目公演、そして五月の二年目定期公演・・・と、ほぼ毎月のように公演が予定されている。

二〇一三年の二月に初めてラジオドラマを制作した。夏までの間に第二弾を行いたかったのだが、それはできずじまい。現在ようやくと二チームに分かれて制作を始めている。

附属劇団の活動はできなかった。卒業後に芝居をする場がない卒業生も多くなってきたことだし、芝居としての照明・音響・装置等の「知」および「技術」の継承のためにも、来年度は積極的な展開をしていこうと思つて